

シンポジウム

家族看護実践における文化的能力
— 農村地域の子育て家族への支援方法からの考察 —

佐藤 紀子 (千葉大学看護学部)

私たちの日常生活は、家族の生活習慣や価値観、地域の自然環境や社会環境、地域特有の規範や慣習などと深く関連している。子育てに関しても、核家族か複合家族かといった家族形態、また農村地域か都市部かといった地域性によって違いがあることは数多く報告されている。

子育てに取り組む家族を支援する立場にある保健師は、乳幼児健康診査や育児相談など様々な地区活動の機会を捉えて母親の悩みに対応したり、母親同士の仲間づくりを支援したりしながら、地域の特性を反映した効果的な子育て支援のあり方を模索している。

私は、平成16年度に農村地域の特性を反映した保健師の子育て家族への支援方法を検討することを目的として、農村地域で子育てに取り組んでいる家族がどのような経験をしているのか、またその地域の人々は子育て家族に対してどのような意識や関わりがあるのかということ明らかにするために聞き取り調査を行った。

調査対象地域は、多世代の同居率が高く、農業を中心とした家業を営む家族が多くみられるところであった。調査結果からは、農村地域の子育て家族は、家族員間の葛藤と調整を繰り返しながら、家業と子育ての両立を図ろうとしている。その中では、多世代が関わる子育てのよさを意識することがあることや、母親にとっては子安講や育児サークルへの参加といった周囲との関係づくりが、自分らしさを発展させるものになっていることが確認できた。また、地域住民は、長年この地に居住し、この地で子育ても経験している人が多いことから、自らの子育て経験と「自分の地域の子どもたち」という思いをもって、今の子どもや母親たちに関わっていた。そして「家の継承」、「農村地域の生活環境」、「地域の連帯感・地域行事」、「労働価値」というものがこの地域の特徴として浮かび上がり、それらが子育て家族の経験や地域住民の子育て家族に対する意識や関わりに影響を及ぼしていることが確認できた。

これらの結果を踏まえると、農村地域の子育て家族を支援するためには、①家族員間だけでなく地域の人たちとの関係性にも着目しながら、家族の調整能力を高めていくことが必要である。また、子育てをとおして家族員自身が多世代が関わる子育てのよさにも目を向けられるよう働きかけていくことも重要と思われる。②地域住民が日頃なにげなく行っている子どもや母親たちへの関わりを「地域の子育て力」として捉え、機会を利用して住民に意味づけていく働きかけが必要と考える。③保健師は、地域の環境や住民の価値観が子育てに大きな影響を及ぼしていることを常に意識し、その特徴や変化を敏感に捉え、援助に反映させていくことが必要と考える。

上記のような支援を展開していくために求められるのが、文化的能力と考える。つまり、目の前の子育てのありようを「多面的総体的に捉える能力」や、母と子、家族、地域といった「個の視点と集団の視点を常に往復できる能力」、子育てのありようはその家族、その地域の歴史のなかでつくられてきたものであり、変化し続けるものであるという「構築的なものとして捉える能力」、看護職者が捉えている事柄は、看護職者自身の経験・背景からきていることを常に「内省できる能力」などの能力である。

このような文化的能力が看護実践において備われば、対象家族の生活の営みをありのまま受けとめ、その家族に受け入れられる方法で将来を見据えた援助が展開できるのではないかと考える。